

News Release



本資料は 2017 年 4 月 27 日に BASF 本社(ドイツ)で発表されたプレスリリースの和訳です。

BASF、2017 年第 1 四半期の業績を発表 売上高、利益ともに前年同期を大幅に上回る

2017 年 5 月 8 日

- 売上高は 169 億ユーロ(前年同期比 19%増)
- 販売量の増加傾向が続く(前年同期比 8%増)
- 特別項目控除前営業利益は 25 億ユーロ(前年同期比 29%増)、
そのうち 20 億ユーロは化学品事業
- 2017 年通期見通しに変更なし

BASF(本社:ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン)はこのほど、2017 年第 1 四半期の業績を発表しました。第 1 四半期は売上高、利益ともに前年同期を大幅に上回りました。BASF 取締役会会長 Dr. クルト・ボックは、次のように述べています。「2017 年、BASF は良いスタートを切ることができました。2016 年を通じて見られた需要の増加傾向が、この第 1 四半期でも継続しました。」

2017 年第 1 四半期の BASF グループ全体の売上高は、前年同期比 19%増の 169 億ユーロとなりました。すべての部門において、販売量の増加傾向の継続が見られ、販売量は 8%増となりました。また、販売価格が大幅に上昇(8%増)し、特に化学品部門での上昇が顕著でした。為替のプラス効果と、2016 年 12 月にアルベマール社から買収したシエメタル社も増収に貢献しました。

BASF グループの特別項目控除前営業利益は 29%増の 25 億ユーロでした。このうちの 20 億ユーロは、化学品部門、高性能製品部門、機能性

材料部門の 3 部門で構成される化学品事業によるものでした。そのため、化学品事業では 37%の増益となりました。

BASF は昨年 10 月に本社工場(ドイツ:ルートヴィヒスハーフェン)のノースハーバーにて発生した事故に関連し、初回支払いとして 1 億ユーロの保険金を受け取りました。この額のおよそ 4 分の 3 が化学品部門に割り当てられました。

営業利益(EBIT)は前年同期比 5 億 8,500 万ユーロ増の 25 億ユーロとなりました。

純利益は 3 億 2,200 万ユーロ増の 17 億ユーロとなりました。1 株あたりの利益は、前年同期の 1.51 ユーロに対して 1.86 ユーロでした。特別項目、および無形固定資産償却分調整後の 1 株あたりの利益は 1.97 ユーロでした(2016 年第 1 四半期は 1.64 ユーロ)。

2017 年通期見通しに変更なし

2017 年の世界の経済状況に対する BASF の予測は、変わらず据え置きます。

- GDP 成長率: 2.3%
- 世界工業生産の成長率: 2.3%
- 化学品生産の成長率: 3.4%
- ユーロ/ドルの平均為替レート: 1 ユーロ=1.05ドル
- 年間平均ブレント原油価格: 1 バレル=55ドル

ボックは次のように述べています。「2017 年通期の見通しについて、私たちは引き続き慎重な見方をしています。マクロ経済の成長や政治環境に関しては、依然としてかなりのリスクが見られます。しかしながら BASF グループ全体の 2017 年の通期見通しを維持し、売上高および利益は、大幅増収が予測されています。大幅増収とは、BASF の定義で最低 6% の売上増を意味します。また、特別項目控除前営業利益は前年比微増

を目指します。この場合の微増とは 1%から 10%の増加を指しますが、限りなく 10%に近い増加になると予測しています。」

部門別業績

「**化学品部門**」の売上高は前年同期比で 36%増の 41 億ユーロとなりました。これは主に、石油化学品事業本部、モノマー事業本部における販売価格の上昇によるものです。全事業本部における販売量の増加も、増収に繋がりました。また、為替のプラス効果もわずかながら、増収に貢献しました。利益率が上昇し、販売量が増加したため、特別項目控除前営業利益は前年同期比で 5 億 100 万ユーロ増加し、9 億 5,800 万ユーロに達しました。2017 年第 1 四半期は本社工場(ドイツ:ルートヴィヒスハーフェン)のノースハーバーで発生した事故により、利益にマイナスの影響が出ましたが、2016 年第 4 四半期に発生した損害に対する保険金の初回支払いにより、相殺することができました。また、主に新工場が始動したことから、前年同期と比べて固定費が増加しました。

「**高性能製品部門**」の売上高は、前年同期比 9%増の 43 億ユーロとなりました。これは主に、ディスパージョン&ピグメント事業本部、ケア・ケミカルズ事業本部、パフォーマンスケミカルズ事業本部における販売量の増加によるものです。また、すべての事業本部で為替のプラス効果が見られ、全体として販売価格がやや上昇しましたが、ポートフォリオの変更によって、わずかな減収となりました。利益率が低下し、固定費が増加したことから、特別項目控除前営業利益は、堅調な水準を維持していた前年同期と比べて 4,000 万ユーロ減少し、5 億 1,500 万ユーロとなりました。

「**機能性材料部門**」の売上高は、前年同期比 18%増の 52 億ユーロとなりました。これは主に、自動車産業からの需要が高まったことにより販売量が大幅に増加したためです。販売価格がやや上昇したことや為替のプラス効果に加え、2016 年 12 月にアルベマール社からシエメタル社を買収したことも増収につながりました。とりわけ販売量の増加、シエメタル社の買収により、特別項目控除前営業利益は前年同月比で 7,500 万ユーロ増加し、5 億 3,100 万ユーロとなりました。

「農業関連製品部門」の売上高は、市場環境が依然として厳しい状態にあるなか、前年同期 4%増の 19 億ユーロとなりました。これは主に、販売価格が安定したことや販売量が増加したことに加え、為替のプラス効果があったためです。特別項目控除前営業利益は、力強い水準を達成した前年同期と比べて 5,800 万ユーロ減少し、5 億 3,300 万ユーロとなりました。これは、プロダクト・ミックスが変わったことで平均利益率が低下したことが要因です。また、新工場の始動などにより、固定費がやや増加しました。

「石油・ガス部門」の売上高は、主に販売価格の上昇から、前年同期比 36%増の 8 億 2,900 万ユーロとなりました。2017 年第 1 四半期には、1 バレルあたりの平均ブレント原油価格が 54 ドルでした(2016 年第 1 四半期は 34 ドル)。欧州の現金取引市場におけるガスの価格も、前年同期と比べて大幅に上昇しました。生産量が前年同期の水準を維持する一方、販売量、とりわけガスの販売量は前年同期の水準を上回りました。特別項目控除前営業利益も大幅に改善し、前年同期比 1 億 400 万ユーロ増の 1 億 7,000 万ユーロとなりました。これは主に販売価格の上昇によるものです。純利益も大幅に増加しました。

「その他」に分類される事業の売上高は、前年同期比で 1 億 3,300 万ユーロ増の 6 億 1,000 万ユーロとなりました。これは主に、原材料取引事業における価格の上昇によるものです。特別項目控除前営業利益は 3,100 万ユーロ減少し、マイナス 2 億 5,000 万ユーロとなりました。これは主に、長期インセンティブ(LTI)制度における評価替によるものです。

地域別にみると、とりわけアジア太平洋地域において売上高と利益が大幅に増加しました。同地域では販売量が全部門で大幅に増加しており、販売価格もとりわけ化学品部門で上昇しました。この成長は主に、中国で展開する事業によるものです。各地域における事業展開に関する詳細につきましては、本日発行いたしました四半期報告書の 13 ページでご確認いただけます。

■BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は世界をリードする化学会社(本社:ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン)で、持続可能な将来のために、化学でいい関係をつくります。また、経済的な成功、環境保護、そして社会的責任を同時に実現しています。BASF では、約 114,000 人の社員一人ひとりがほぼすべての産業、ほぼすべての国においてお客様の成功に貢献できるよう努めています。製品ポートフォリオは化学品、高性能製品、機能性材料、農業関連製品、石油・ガスの 5 つの部門から成ります。2016 年、BASF は約 580 億ユーロの売上高を達成しました。BASF の詳しい情報は、www.basf.com (英語)、newsroom.basf.com (英語)、www.basf.com/jp (日本語)をご覧ください。

将来の予測に関する記述について

この文書には BASF 経営陣による現時点での経験、推測、および予測、ならびに現在入手可能な情報に基づく「将来の予測に関する記述」が含まれています。これらは将来の業績を保証するものではなく、予測が困難な一定のリスクと不確実性を含んでいるほか、将来のできごとに関する、正確とは限らない仮定に基づいています。BASF の実際の結果、業績、達成事項は、多くの要因によってこれらの記述が明示的または黙示的に示したものと大きく異なる場合があります。この文書に記載された将来の予測に関する記述に関しては、BASF は更新の義務を負いません。